

学部等名	バイオ・情報メディア研究科 バイオニクス専攻
------	------------------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻は、持続可能な社会の構築に貢献する科学技術等の発展を先導するとともに、国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と高度な専門能力、高度なコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成している。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻では、特に医薬品、食品、化粧品、環境などの分野に注力し、生体の仕組みや生体が生産する物質を探究して、それを応用する研究、教育を実施している。特に医薬品や化粧品分野においては、最近では SDGs に着目し、社会的ニーズに即したサステイナブルな原材料を用いた応用研究が学びの場として提供されている。また、博士前期課程の授業の中では、講義全てを英語で実施する科目を開講するなど学生の国際性を高める取り組みを行っている。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻の3つのポリシーについては、東京工科大学 HP や学生便覧を通じて、受験希望者、学生、教職員に周知している。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

バイオ・情報メディア研究科では、全授業科目の授業アンケートを実施し、取りまとめられた結果は、研究科長、専攻長で確認を行い、改善につなげている。また、大学院博士前期課程を修了する学生に対して、大学院独自にアンケートを行っている。結果については、研究科委員会で報告し、改善につなげている。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

上記 2-1 に記載のとおり、授業アンケート結果並びに大学院修了生アンケート結果を確認し、改善につなげている。また、大学全体で行われる自己点検・評価委員会において、大学院も対象となっていることから、こちらでも自己点検・評価を行っている。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

大学院独自では、IR 活動を実施していない。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

バイオ・情報メディア研究科では、授業アンケート結果並びに大学院修了生アンケート結果を確認し、改善につなげている。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ウ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

大学院独自の IR 活動について検討する。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻の3つのポリシーについては、東京工科大学 HP や学生便覧を通じて、受験希望者、学生、教職員に周知している。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻では、特に医薬品、食品、化粧品、環境などの分野に関する幅広い専門的知識を修得させるとともに、従来の専門分野にとらわれない分野横断的に学修するカリキュラムを編成し、実施している。特に様々な分野からの外部講師を招き、分野を超えた実践的な知見を御紹介いただくことで、高い学修効果を目指した。また、バイオ・情報メディア研究科博士前期課程の共通科目として、専門的な知識の土台として、21世紀社会の能力として要請されている汎用的な能力を学んでもらうためのジェネリックスキル科目も開講している。なお、カリキュラムは毎年見直しを行っている。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻では、ディプロマ・ポリシーを定め、学生便覧などで周知している。修士論文、博士論文の審査においては、学位論文に係る評価に当たっての基準に定めた、論文審査体制、審査の方法、審査基準・水準に基づいて厳正に実施している。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

大学全体として、アクティブラーニング、PBL（課題解決型学習）、グループワークを取り入れた授業の実施を推進しており、大学院の教育でも実施している。また、バイオ・情報メディア研究科では、専門科目の他に、専門的な知識の土台となる汎用的な能力の修得に向けたジェネリックスキル科目を開講している。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

大学院博士前期課程では、1年前期から修士論文の作成に向けた科目を配置し、専攻ごとに発表会の機会を設け進捗状況を確認している。また、博士後期課程においては単位制の授業はないが、毎年1回発表会の機会を設け、博士論文の作成に向けた進捗状況の確認を行っている。修士論文、博士論文の審査においては、学位論文に係る評価に当たっての基準に定めた、論文審査体制、審査の方法、審査基準・水準に基づいて厳正に実施している。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ
--	---

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

--

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

大学院独自で教員の採用は行っていない。本学の教員が大学院で授業、学生指導を担当できるようになるためには、大学院担当教員審査基準を満たす必要がある。大学院担当教員資格審査委員会は年に2回実施している。また大学院担当教員の資格については、6年間と任期を定めており、5年経過時点で大学院担当教員資格審査委員会において継続審査を実施している。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

本学では、大学の全専任教員と全事務職員を対象としたFDとSDとして、年間10回「全学教職員会」を開催している。ここでは、学長の方針や各学部・学環、大学院研究科の方針等のほかに全学的に共有すべき情報や教育向上のための新たな教育手法の紹介、コンプライアンス研修やハラスメント研修など多方面のテーマを設定し八王子・蒲田両キャンパス合同で実施している。また、2024年度には、教員の教育、研究力の向上を目的として、片柳研究所が主催し、「英語論文執筆セミナー」や「科研費申請書面談添削」が実施された。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

教員の教育・研究活動の成果については、1年に1回取りまとめられ、標準教員評価として評価されている。各教員の研究活動の成果については、情報公開のページにまとめられ、世間に公表するとともに、特徴的な各教員の教育・研究活動や指導している学生の受賞などについては、大学や学部のHPや学報、学部独自に運営されるSNS（XやInstagram）に記事を掲載し、広く世間に成果を公表している。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻では、特に医薬品、食品、化粧品、環境などの分野の教育、研究に注力している。授業や研究活動を通じて、これらの分野の高度な技術者や研究者を養成している。特に本専攻の特徴でもある化粧品分野においては、化粧品開発関連の強みを生かした産学連携が活発に行われており、2024 年度も POLA 株式会社との連携による新商品開発が行われた。また食品分野においても、高度な食品分析技術を駆使して食用油脂の新しい分析指標を同定し、2024 年度には日本油化学会第 62 回年会において学生奨励賞を大学院が受賞した。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

バイオ・情報メディア研究科バイオニクス専攻では、医薬品、食品、化粧品、環境などの分野に関する教員を多くそろえており、授業科目の内容が多岐にわたることから、自分の専門とする分野の知識にとどまらず、幅広い分野を横断する知識と視野を身につけた人材を育成していることが特徴と考える。特にバイオニクス特別講義では、医薬品、食品、化粧品、環境の分野において、それぞれ第一線で活躍している人材を招聘し最先端の技術紹介を教育している。また、本専攻では、外部発表を積極的に推進し、修了要件ともしており、大学院生が日本学術振興会の特別研究員 DC1 にも採択されるなど、成果が上がっている。

大学全体の研究活性化を目的として片柳研究所では、Scopus 掲載論文を執筆した教員に対する「国際学術論文投稿助成制度」を実施している。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

（参考）

5-1・5-2. 具体的事例

- ・ 松井 毅応用生物学部教授が株式会社ポーラの新商品開発に研究協力

<https://www.teu.ac.jp/information/2024.html?id=231>

- ・ 大学院バイオニクス専攻の学生が日本油化学会第 62 回年会で学生奨励賞を受賞
<https://www.teu.ac.jp/information/2025.html?id=25>

- ・ バイオニクス専攻博士前期課程 2 年の奥泉伶菜さんが日本学術振興会特別研究員に内定
<https://www.teu.ac.jp/information/2024.html?id=207>